2011年10月 話題広告賞



10月30日付

2011年10月30日付 ほか 7段 計4回

JA長野中央会 [広告会社 ながのアド・ビューロ／制作 シード]

豊かな実りは、ふるさとの恵み。米は日本人の心。

さまざまな作物が収穫を迎える秋。しかし、「実りの秋」という言葉は、やはり米にこそふさわしい。

みっちりと実が太り、重たげに頭を垂れた稲穂。吹き渡る風に、黄金色の田んぼが、さらさら、ざわざわと揺れる。抜けるような青空、刷毛で描いたような雲。その下を群舞する赤トンボを押しのけて、コンバインが稲を刈り取っていく。

ヒデリノトキハナミダヲナガシ
サムサノナツハオロオロアルキ―

技術が進歩した今も嘆きは同じ。天候不順や猛暑に気をもみ、台風の進路に神経をとがらせる。加えて今年は、東北の米農家のことを思い、米作りに一段と力が入った。

そして迎えた秋。今年も良い米ができた。あらためて自然の力の偉大さを、ふるさとの恵みのありがたさを、思う。

日本人にとって、米は特別な食べ物、幸福の原点。生きる勇気を与えてくれる豊かな実りを、ともに分け合いたい。

おいしさは情熱の結晶。
地元の米を、もっと味わいたい。



信濃鶴 醸造元 酒造株式会社長生社（駒ケ根市）
専務取締役 北原岳志さん

明治16年創業、今は純米酒のみを造っています。原料の酒米・美山錦は、ほとんどが隣町の飯島町産、県内産100%です。純米酒は米と水で造るもの。地元で育った米の方がその土地の水と相性が良いに決まっていますし、その土地の自然や風土とあいまって、個性を醸し出してくれるのです。「信濃鶴」のすっきりとした味わいも、酒米をはじめこの地のすべてのたまものと感謝しています。

絆 農家&新米ママ

「おかゆポット」で子育て応援



JA上伊那は米消費拡大の一環として毎年、赤ちゃんが生まれた家庭に、離乳食のおかゆが簡単に作れる「おかゆポット」を、管内の市町村を通じてプレゼントしています。新米ママにとって初体験の子育ては何かと不安なもの。小さなプレゼントは心強い応援です。

安心・安全な暮らしは大丈夫？

TPP参加は本当に必要でしょうか。

わが国のTPP（環太平洋パートナーシップ協定）参加について、現在、政府内で論議が行われています。TPP参加は日本の農業はもちろん地域社会・経済などさまざまな面に影響を及ぼします。本シリーズではそうした問題を提起し、JAとしての考えを主張していきます。皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いします。

米すら自給自足できなくなる懸念も

Q. TPPに参加した場合、米の自給率はどうなるの？
A. 米は食料輸入大国・日本が唯一自給自足している穀物です。しかし、TPPに参加によってかなりの部分が外国産に置き換わり、自給できなくなるのではないかと心配されています。

Q. 自給率はどの程度と見込まれているの？
A. 農水省は米の生産量が90%減少すると試算しています。日本の食料自給率は今でさえ40%（カロリーベース）と先進国のなかで最低水準。それが13%程度まで落ち込み、米すら自給できない―という状況でいいのでしょうか。

輸入頼みで本当に大丈夫？

Q. 食料はどんどん輸入すればいいという意見もあるけど？
A. 世界の穀物需給は人口増加等により逼迫傾向が続いており、輸入に過度に依存することは食料安全保障の点で大変危険です。それに、日本の輸入拡大は食料需給の逼迫や価格高騰に拍車をかけ、世界の飢餓を深刻化するおそれもあるのです。

JA長野県農政対策会議　JA長野県グループ　食と農と環境を育むネットワーク

お問い合わせ先：JA長野中央会 地域農政部 農政対策課 〒380-0826 長野市北石堂町1177-3 TEL026-236-2030 E-Mail:agri@nn-ja.or.jp

9月25日付

真心で収穫した新鮮なレタスは、高原の生気の塊。

標高1300メートルの高原に緑の農地が広がる。南佐久郡川上村は全国に知られた高原レタスの一大産地。出荷はお盆を挟んだ夏のこの時期がピークだ。

収穫作業は、早いときは夜中の1時、2時ころから始める。午前中には作業を終え、より鮮度の高い状態で出荷したいからだ。

青々と輝くレタスは高原の生気の塊。その根元を包丁でスパッと切り、外側の堅い葉を取り、雨ではねた泥は洗い落とし、一玉一玉、丁寧に箱詰めしていく。高地とはいえ厳しい夏の日差し。日が昇れば、額から汗が一段と滴り落ちる。

高原の冷涼な気候は産地の財産だ。けれどもその分、生育状況は自然に左右されやすい。だから、順調に育った玉を無事に出荷できたときは、素直にうれしい。

今年も出来は上々だ。パリパリ、シャキシャキ、おいしく食べてくれる、全国のレタス好きが待っていてくれるから―。安心、新鮮、自慢のレタスを今日も届けたい。

パリパリ、シャキシャキの、レタスをもっと食卓へ。



キャナリィ・ロウ長野店（長野市稲田）
チーフ　植原泰之さん

5年前に開店したイタリアンレストラン。ピザやパスタ、ケーキはもちろん、サラダバーも人気のメニュー。野菜の鮮度や味がストレートに出ますし、お客さまも「安全・安心」には敏感。ですから、やはり地元の野菜、レタスならこの時期は川上村産ですね。山盛りのサラダをおいしそうに食べるのを見るとうれしくなります。これからも地元産を大事にします。

絆 生産地&都市住民

つながり深まる農業体験



川上村には毎年、東京・三鷹市の小学生や親子がレタスの収穫体験にやってきます。時期によっては種まきや苗の定植を体験、育ったレタスを送ってもらい、子どもたちが地元で販売することもあります。生育状況はJA長野八ヶ岳がメール配信。愛着が一段と深まる農業体験です。

安心・安全な暮らしは大丈夫？

TPP参加は本当に必要でしょうか。

わが国のTPP（環太平洋パートナーシップ協定）参加について、現在、政府内で論議が行われています。TPP参加は日本の農業はもちろん地域社会・経済などさまざまな面に影響を及ぼします。本シリーズではそうした問題を提起し、JAとしての考えを主張していきます。皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いします。

「安全・安心」のためのルールは大丈夫？

Q. TPPに参加した場合、食の「安全・安心」への影響は大丈夫？

A. 国内の食の安全・安心を守ってきたルールが、自由貿易を損なう「非関税障壁」として緩和・変更を迫られる可能性があります。

Q. 例えば、どのようなことが考えられますか？

A. BSE対策である輸入肉用牛の月齢制限、ポストハーベスト農薬の使用禁止、残留農薬の基準値、使用できる食品添加物の制限、遺伝子組み換え食品の表示ルールや輸入拡大…などさまざまな面で影響が懸念されます。

脅かされる日本の食卓

Q. そんなに「ルール」に違いがあるのですか？

A. 残留農薬の場合、米国の基準値は、殺虫剤（クロルピリホス）が日本の80倍、殺菌剤（キャプタン）は60倍です。BSE対策にしても、米国では出荷牛肉の1%程度しか検査していません。こんなことが受け入れられるでしょうか。

JA長野県農政対策会議　JA長野県グループ　食と農と環境を育むネットワーク

お問い合わせ先：JA長野中央会 地域農政部 農政対策課 〒380-0826 長野市北石堂町1177-3 TEL026-236-2030 E-Mail:agri@nn-ja.or.jp

8月28日付

信州の食と農の絆シリーズ⑥《酪農家の思い》

たっぷりの愛情がおいしさを育む。牛乳は俺たちの誇り。

酪農家の朝は早い。

夏でも日の出前から、牛に餌をやり、牛小屋を掃除し、乳を搾る。終わるころには、特に夏場は汗びっしょりだ。

良質な乳を生産するため、毎日、牛の健康には気を使う。生きもの相手だから、人間の方を牛に合わせる。1日たりとも世話を怠ることはできないから、年中無休も当たり前の仕事だ。

命は命によってのみ支えられるもの。牛乳はまさに牛が分け与えてくれた命の一部だ。しかし、その値段はあまりに安く、飼料などのコストは膨らむばかり。

それでも、牛は家族だから、おいしくて、新鮮で、安全で安心な牛乳をたくさんの人に届けることに誇りを持っているから、この仕事をこれからも続けていきたい。

だからもっと、地元の牛乳を飲んでほしい。

新鮮な信州の牛乳を、もっと、食卓へ。

絆 生産者&子どもたち

触れて分かる命の原点

JA松本ハイランド酪農部会は今年も地元の保育園などで食農教育に取り組んでいます。松本市の島立中央保育園に連れてきたのは子牛1頭とポニー2頭。子牛の鼻面をなでたり、聴診器で心臓の音を聞いたり、家畜と触れ合いながら、園児は命の温かさを胸に刻みました。





プリン専門店「春夏秋冬」(松本市双葉)
オーナー 塚原米子さん

創業12年目。安曇野の新鮮な牛乳と松本平の産みたての卵を使い、松本ならではの味にこだわったプリンを提供しています。地元産のリンゴやサツマイモ、ソバ、ワインなどを生かしたオリジナル製品の開発も手がけています。地元の食材は、農家の顔が見えるので安心ですし、その土地ならではの味わいのおおもと。店の評判も地元の農家の皆さんのおかげ―と思っています。

安心・安全な暮らしは大丈夫？

TPP参加は本当に必要でしょうか。

わが国のTPP（環太平洋パートナーシップ協定）参加について、現在、政府内で論議が行われています。TPP参加は日本の農業はもちろん地域社会・経済などさまざまな面に影響を及ぼします。本シリーズではそうした問題を提起し、JAとしての考えを主張していきます。皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いします。

国産の牛乳乳製品は56%、牛肉は75%も減少

Q. TPP参加は国内農業に大きな影響を及ぼすといわれます。

A. TPPに参加すると、多くの農畜産物が国内産から外国産に置き換わってしまうと考えられています。農水省の試算だと、畜産の場合、国内産の牛乳乳製品は56%、牛肉は75%、コメに至っては90%も減少してしまうとみられています。

Q. そうすると、食料自給率もさらに下がってしまいますね。

A. 日本の食料自給率は現状でも40%（カロリーベース）に過ぎませんが、それがさらに下がり、13%にまで落ち込んでしまうのではないかと懸念されています。

「安全・安心」を守るためのルールも危機に？

Q. 「安全・安心」の面での心配は？

A. BSE対策の輸入肉用牛の月齢制限、ポストハーベスト農薬の使用禁止、遺伝子組み換え作物の表示ルール―など、国内の食の安全・安心を守るためのルールが、自由貿易を損なう「非関税障壁」として変更を迫られる可能性があります。

JA長野県農政対策会議　JA JA長野県グループ　食と農と環境を育むネットワーク

お問い合わせ先：JA長野中央会 地域農政部 農政対策課 〒380-0826 長野市北石堂町1177-3 TEL026-236-2030 E-Mail:agri@nn-ja.or.jp

7月31日付